

第 166 回定例会 10 月 30 日(金)、日本規格協会東北支部において開催された。出席者数は 17 名であった。

(1)「機能性評価祭りⅡのDVDについて」(塩沢潤一／クオリティクリエイト㈱)： 9 月 18 日に仙台で開催した機能性評価祭りⅤの講演等を編集し、DVDとして完成した。今後、配布し活用を図る。

(2)「機能性評価祭りの総括について」(小野元久／宮城教育大学)： 機能性評価祭りを来年以降も実施するのか、どんな形にするのか、議論した。実施の方向でさらに関係者で議論を深めることとした。また、祭りの成果物として事例等を出版、または冊子化するかどうかについて議論された。地域への普及の観点からさらに検討することとした。

(3)「O リングの評価方法について」(佐藤啓／セイコーインスツル)： O リングの機能性評価において、基本機能をどう定義するかを中心に評価方法についての議論を行った。O リングに求められるものは密閉性であることから、「真空ポンプで減圧後、リークによる内圧上昇を時間変化として測る」という案が挙げられた。信号として時間を取るのは適切でないとの結論となった。また、「ゴムの物性的変化で評価ができるのでは？」という意見も挙がった。例えば様々な誤差因子のもとで、荷重-変位や粘弾性がロバストなものは O リングとしての機能もロバストであるという考えである。実際にダメになった O リングを調査し適切な誤差因子を選定することで、それも可能となるのでは？とのコメントが出された。誤差因子についても様々な意見があがった。例えば O リングの各部一様に熱などのノイズを与えるのではなく、わざとムラをつくるような与え方の方がよいのでは、といったコメントなど。

(4)「”アメフリテスト”の紹介」(宇井友成／アルプス電気㈱)： 文献の中で”アメフリテスト”なるものが出てくるが、内容が判らないとの会員の問いかけに宇井氏が自らの教育体験を交え応えた。100 文字程度の文字列の中にランダムに「ア・メ・フ・リ」の文字が含まれており、これを見つけ○を付けていくもので、早さ、正確さによって作業者の適性評価等に用いられる。正確さをオメガ変換で評価したり、文字数を 100,200,300 と変え、処理時間をゼロ点比例式で評価する等の解析も行われた。班毎にまとめて採点した結果は班長の経験的判断と一致する等の興味深い結果も交え、具体的内容が紹介された。さらに、箱に指定された向きでサイコロを並べていく「サイコロ試験」も紹介された。

(5)「書籍紹介」(宇井友成／アルプス電気㈱)： □「恩師の条件」(黒岩祐治著、リヨン社) 灘高校で国語の教師として独特の教育を実践し、飛躍的に学力を高めた橋本先生をモデルにした著書。先生は通常の教科書を一切使わず、岩波文庫「銀の匙」を読み進めた。その中にある記述内容を実体験させる等で「苦手」を「好き」に変える教育をおこなった。品質工学の社内教育に関わる会員も多いため、参考になる紹介であった。□「ベーシックオンライン品質工学」(田口玄一、横山よし子共著、日本規格協会) 宇井氏の実践する”模写”による学習法も紹介。そのまま真似るだけでなく、独自の補足も入れ判りやすくしているのが特徴。

(6)「品質工学の自主教材について」(阿部功悦／聖翔(株))： 人材派遣会社に於いて、社員が品質工学を身につけることで派遣先での仕事の質を高めようとの試みを進めている。そのため用意した社内教材を紹介し、会員の意見を求めた。そのような技術を持った人が派遣されると正社員にとって脅威だ等の意見が出された。また、プレゼンで見せる資料なのか、読ませる資料なのかによって書き方が異なるが、この資料はどちらが目的か等の指摘があった。

次回は11月25日開催予定。

(NEC トーキン(株) 坂川義満 記)